

# 平成 19 年度 第 1 回「越前市地域公共交通会議」

---

## 協 議 概 要

日 時：平成 19 年 8 月 3 日(金)10:00 ~ 11:50  
会 場：越前市福祉健康センター 4 階 大会議室  
出席委員：18 名 欠席委員：2 名

### 1 . 開 会

### 2 . あいさつ 中谷企画部長

### 3 . 越前市地域公共交通会議について

国土交通省の説明資料、市設置要綱で説明

### 4 . 会長あいさつ 川上会長あいさつ

### 5 . 自己紹介

### 6 . 議 事

#### (1) 本格運行経過について 【資料 1】

越前市市民バス本格運行の利用実績報告  
時刻表、ポスター等の広報について  
その他

#### (2) 市民バス新車両導入について 【資料 2】

低床型車両 1 台の導入を 9 月 1 日に行い、出発式をする旨の報告があり、本会議からの出席者には大柳副会長を依頼した。

#### (3) 市民バスペイント企画について

(社)武生青年会議所から、市民バス 2 台の車両を利用して、その側面に子供たちが考えたデザインを子供たちでペイントするというイベントについて報告があった。委員から、ペイントの経年変化は大丈夫かとの質問があり、青年会議所から 5 年は大丈夫であるとの回答があった。

#### (4) 運転免許自主返納支援事業について 【資料 3】

事務局から同事業について資料 5 をもとに説明があり、了

承された。なお、事業実施前後の人数を比較し、その効果を測ることと、身分証明書のことについて申請者に十分説明すべきとの意見がありその方向で実施するとの事務局の回答があった。

- (5) 地域公共交通への補助額について 【資料4】  
資料をもとに事務局から報告があった。

- (6) 市都市戦略策定公共交通チームについて 中間まとめ 【資料5】  
市では、新しい公共交通のあり方を調査研究するために、各部局の若手職員 11 人からなる庁内横断型のみだしチームを編成した。チームの報告書づくりに活かすため、本日の市地域公共交通会議において委員との意見交換を実施することになり、チームの代表者が中間まとめの発表を行った。

委員からは、子供に対する公共交通利用の環境教育を重視すべきであること、これまで公共交通は福祉的側面で見られていたが、今後は、地方都市といえども公共交通には都市構造やまちを変える力があるという視点を持つべきとのなどの提案があった。

- (7) その他

県の総合交通課から、高校生の通学の公共交通利用促進について、市と同じ考えであり、県としても県カーセーブ事業の一環として推進していきたいとの発言があった。

## 7. 閉 会

## 武生エリア年度別利用客数

	4月	5月	6月
H 1 5 年度	2,927	3,100	2,980
H 1 6 年度	3,028	2,857	3,118
H 1 7 年度	2,956	2,961	2,941
H 1 8 年度	2,864	2,975	3,084
H 1 9 年度	3,785	4,211	4,452

## 今立エリア年度別利用客数

	4月	5月	6月
H 1 5 年度	3,201	3,646	3,876
H 1 6 年度	3,374	3,409	4,008
H 1 7 年度	2,895	2,946	3,670
H 1 8 年度	2,925	3,244	3,735
H 1 9 年度	2,391	2,831	3,074

## 市民バス年度別利用客数合計

	4月	5月	6月
H 1 5 年度	6,128	6,746	6,856
H 1 6 年度	6,402	6,266	7,126
H 1 7 年度	5,851	5,907	6,611
H 1 8 年度	5,789	6,219	6,819
H 1 9 年度	6,176	7,042	7,526

## 市民バス新車両（低床バス）の導入について【資料 2】

現在、越前市の市民バスは、運行委託業者所有のバス 6 台を使用して、1 1 路線を運行しています。この度、市が低床型ノンステップバス 1 台を購入し、運行委託業者に貸与し、市街地循環北ルート及び市街地循環南ルートで使用します。

バスのデザインは、仁愛大学・金田研究室の協力を得て、市が決定いたしました。

1. 車種	HINO Pomcho
(1) ボディ様式	低床型ノンステップバス 左中央ドア一枚取付
(2) 定員	25 人（座席 14 + 立席 10 + 乗務員 1）
(3) 寸法	全長 6.3 m 全幅 2.1 m 全高 3.1 m
(4) エンジン	ディーゼルエンジン（新長期排ガス規制適合車）
(5) 落札価格	18,300,000 円

### 2. 特注の主な部分

#### (1) 昇降口関係

- ・車椅子用スロープ板を設置し、スロープ板は手動式とする。
- ・扉開閉予告ブザーを設置する。
- ・昇降口には照射灯を設ける。
- ・乗降中表示できるものを車体後ろに取り付ける。

#### (2) 床関係

- ・通路面は、平らになるようにする。ただし、最後部席は段付床。
- ・床表面全体にノンスリップタイプの床貼り材を貼り付ける。

#### (3) 座席関係

- ・車椅子用固定ベルトを設置する。

#### (4) 室内装備関係

- ・フロント、サイド、リアに行き先を知らせる方向幕（LED 表示できるもの）を取り付ける。

#### (5) 車外設備関係

- ・車体後部にシャッター付きバックアイカメラを設置し、運転席にモニターを設置する。

#### (6) その他

- ・広告枠を取り付ける。

### 新車両の出発式について

1. 日時	平成 19 年 9 月 1 日（土）12 時 50 分～14 時
2. 場所	J R 武生駅前広場（アルプラザ南口の市民バス停留所付近）

- 3.出席者 市長、議長、佐々木総務委員会委員長、市地域公共交通会議を代表して1名、金田明彦仁愛大学教授、保育園の子どもたち
- 4.スケジュール 12時50分 市長、議長あいさつ
- 12時55分 子どもから運転手に花束贈呈  
車内見学
- 13時15分 バスに乗車
- 13時19分 武生新駅発 市街地循環南ルート
- 14時00分 JR武生駅下車

## 運転免許自主返納支援事業（案） 【資料3】

運転免許を自主的に返納される65歳以上の高齢者を支援します。

高齢者の交通事故が多発しています。高齢化社会を迎え、安全の面からも環境の面からも、自家用車から公共交通機関の利用へとシフトしていくことは時代の要請です。

その解決手段の一つとして、市では、平成19年 月 から、運転免許の全部を自主的に返納される65歳以上の高齢者を対象に、運転免許の自主返納支援事業を行います。

### 1.対象者

平成19年 月 日以降に、自主的に有効期間内の全ての運転免許を返納する満65歳以上の越前市民

### 2.支援内容

返納する運転免許有効期限まで越前市市民バス(のろっさ)を利用できる無料乗車券を交付する。(ただし、返納時の有効期限が1年未満のときは1年間の無料乗車券とする。)

### 3.申請の手続き

越前警察署、今立警察署、運転者教育センターで、運転免許の全部取消の申請をしてください。(運転免許証を持参し、「運転免許取消申請書」に自署にて申請します。)

受付時間は、土・日曜日・祝日を除く、午前8時半から午後5時半です。

手数料は、かかりません。

返納申請したときに即時に発行される「申請による運転免許の取消通知書」(写し)と運転免許証の写しを運転免許自主返納支援事業申請書に添えて、市政策推進課へ提出または郵送してください。(運転免許自主返納支援事業申請書は、市政策推進課、越前警察署、今立警察署、運転者教育センターの窓口に備えてあります。)

市民バス(のろっさ)の無料乗車券を即日お渡しいたします。

無料乗車券の有効期限が過ぎると、自動的にその乗車券は無効となります。なお、乗車券の返却は必要ありませんので、各自破棄してください。

#### 4. その他

申請には、「運転免許経歴証明書(顔写真付)」(手数料1,000円)は必要ありません。

また、返納した時点で運転免許は失効しますので、絶対に自分で車に乗っていかないでください。

#### 5. 問い合わせ先

越前市企画部政策推進課 電話：0778-22-3016

## 地域公共交通に関するコスト(平成18年度)【資料4】

	支出額	国・県補助額	実支出額
市民バス	運行費用 52,145,310円 (全11ルート、スクールバス 併用3路線を含む) 収益 5,897,160円 委託料 46,248,150円	国庫補助 10,000,000円 県補助金 10,606,500円	25,641,650円
路線バス	20,826,479円	県補助金 4,056,500円	16,769,979円
福祉バス	5,780,000円		5,780,000円
福井鉄道	運行維持補助金 8,536,000円 近代化補助金 11,309,000円 (平成17・18年度の低床型 車両の導入への補助)		19,845,000円
合計	92,699,629円	24,663,000円	68,036,629円

# 越前市都市戦略策定公共交通チーム 中間まとめ

## 【資料5】

### 1 チームに与えられた課題

越前市における定住化の促進に資するため、これからの公共交通のあり方について調査研究し、公共交通体系に係る政策を提案する。

### 2 これからの公共交通のあり方について

#### 行政の積極的支援

##### 〔公共交通は行政サービス〕

交通弱者への支援策      将来の都市づくりを考えた公共交通施策  
道路整備費予算              公共交通関係費予算

##### 〔市民・企業・学校との協働〕

企業(学校)との協働による通勤(通学)への利用促進  
商業、観光との連携による利用促進

#### クルマ優先社会の見直し

##### 〔自動車と公共交通の程よい関係〕

徒歩、自転車、公共交通、自動車等の複数の交通手段を状況に応じて  
選択できる

#### イメージ刷新

##### 〔見た目・快適さも大事〕

明るくきれいなイメージ  
乗ってみたいくなるデザイン  
移動体空間としての楽しさ、居心地のよさが感じられる

##### 〔公共交通のよさをアピール〕

安全面   ・・・ 交通事故の減少に貢献  
環境面   ・・・ エコロジーな社会づくりに貢献  
健康面   ・・・ 歩く距離が増えることにより運動不足解消  
経済面   ・・・ マイカー利用と比較すると想像以上に経済的

##### 〔公共交通を身近なものに〕

子供のころから公共交通機関に触れる環境づくり  
市民への PR

### 3 具体的な施策

#### 直ぐにできること

安全面のアピール・・・高齢者に対する免許自主返納推進のための取組み

- 事例 - 鯖江市  
・返納者に1年間の市民バス無料チケット配布

市民へのPR・・・転入者への時刻表配布(市民課窓口)

通学への利用促進・・・高校に対する公共交通利用の呼びかけ

#### 検討すべきこと

通勤(通学)への利用促進

・・・公共交通機関の運行回数、時間の充実、料金の引き下げ

企業(高校)との連携による公共交通の通勤(通学)利用促進

- 事例 - 通勤補助の見直し(名古屋市役所)  
・自転車や徒歩に対する通勤補助の増加  
・自転車通勤に対する補助の減額  
【結果】2000年に比べ、2003年には自転車通勤者が約50%増えた一方、マイカー通勤者は約25%減少

クルマ優先社会の見直し

・・・パークアンドライド、サイクルアンドライド等の整備  
自転車利用促進のための屋根付き駐輪場整備

観光との連携・・・市民バスの運休日にバスを有効利用する

身近なものに・・・小・中学校での公共交通教育

よさをアピール・・・安全面、環境面、健康面、経済面から資料を作成し自発的に公共交通利用にシフトするように誘導

#### じっくり考えること

予算の確保・・・道路整備費用と公共交通関係費用とを総合的に考えた予算配分の検討

クルマ優先社会の見直し

・・・車道から歩道、自転車道へ道路空間の再配分

- 事例 - 自転車走行区間の確保(前橋市、宇都宮市)

公共交通優先・・・一般車輛より公共交通を優遇する

- 事例 - バス専用道路(富山市、北九州市)



## データで見る公共交通トピックス

### 1 「いまどきの高校生通学事情」悪天候時には、生徒の約70%が車送迎を利用

高校生の通学状況について、市内の3高校にヒアリングしたところ、多くの生徒が家族の車送迎にたよっている実態が明らかになった。ある高校の周辺では、悪天候時の通学時に数百台の車が集中することとなり、渋滞が発生している。

県のアンケート調査結果（県立高校6校、私立高校2校）

毎日車送迎 17.8%

悪天候時のみ車送迎 42.8%

計(車送迎) 60.6%

冬期スクールバス 12月～2月 21路線

- ・ 料金がいため、車送迎に頼る場合もある。
- ・ 事務局を各高校が持ち回りで担っているためかなり負担となっている。

### 2 地球温暖化対策(CO2削減)のためには、マイカー利用の削減が効果的

世帯あたりのCO2排出量は平均約5,400kg。そのうちマイカーからの排出量は1,701kg(31.5%)を占めている。

(試算) 通勤条件 普通乗用車(CO2排出量129g/km) 片道15km 20日/月

$129(\text{g/km}) \times 600(\text{km}) \times 12(\text{ヶ月}) = \text{年間約} 929 \text{ kg}$

**通勤にクルマを使うことをセーブすることは環境面で極めて有効**

### 3 自家用車1台減らすと、1000万円以上の実質収入増

通勤に利用する自家用車の維持費を試算したところ、自家用車1台につき、生涯勤務年数(40年)で約1000万円～1700万円の経費がかかっていることが分かった。1台減らして公共交通で通勤すれば、家1軒の新築費又は子供一人の養育費を捻出することができる。少子化対策にもなる！

### 4 通勤距離8kmをマイカー通勤からバス通勤に変えると月額1,695円の得

通勤する際の自家用車と公共交通のコストを比較したところ、公共交通(バス)を利用すると、8kmの距離から通勤した場合、月1,695円得(なお、市職員の公共交通利用通勤者は2.4%に過ぎない)。

### 5 利用者1.9倍増で、運賃370円 200円に値下げ可能(福鉄バス・南越線)

路線バスへの財政支出額を基に試算したところ、路線バス(南越線)の場合は、料金を200円に値下げするためには、利用者を1.9倍に増加させる必要があることが分かった。